

令和元年度 普及活動成果集

多様な担い手が活躍する都市型農業をめざして



福岡県北九州普及指導センター
令和2年3月

ブロッコリーほ場排水対策等機械実演会
(カットドレーン mini とサブソイラー)

出荷前のシクラメン
(若松区)

いちごの新規就農者
巡回

営農基礎講座
「土づくり編」

ぶどう講習会

はじめに

令和元年度は、4～6月に日照量が多かったものの降水量が少なく、その後の7～8月の記録的な豪雨が作物の生育に悪影響を及ぼしました。

また、9月以降は晴天が続き、野菜を中心に生育が前進するなど、本年度の気象条件も生産管理が難しい年でした。

このような中、普及指導センターは、「多様な担い手が活躍する都市型農業の確立」をめざして、関係機関と連携を図りながら、課題解決に取り組んできました。

プロジェクト課題の「北九州西部地区のブロッコリー生産振興」では、担い手への農地集積により、中核的生産者の規模拡大を支援するとともに、ブロッコリーの生産性向上を目指して、適期定植に向けた排水対策の実施や堆肥を利用した土づくり等の取り組みを支援しました。

「北九州地域の新規就農者支援体制の整備」では、北九州地域での新規就農予定者の研修受け入れ体制を充実するとともに、個別巡回や営農基礎講座を開催するなど、新規就農者の就農支援を行いました。

さらに、新規需要米(米粉用)の生産振興や、ICTを活用したいちご生産技術の向上、アブラナ科野菜の根こぶ病対策、花き部会の活性化、小倉牛復活に向けた黒毛和牛地域内一貫生産の取り組み等を支援しました。

この成果集は、本年度の普及活動で成果の上がった事例や地域での新しい取り組み等をわかりやすく取りまとめたものです。農業者の皆さんや関係機関の方々の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、職員一同、一丸となって地域の課題解決に取り組んでいく所存でございますので、引き続き普及活動のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和2年3月

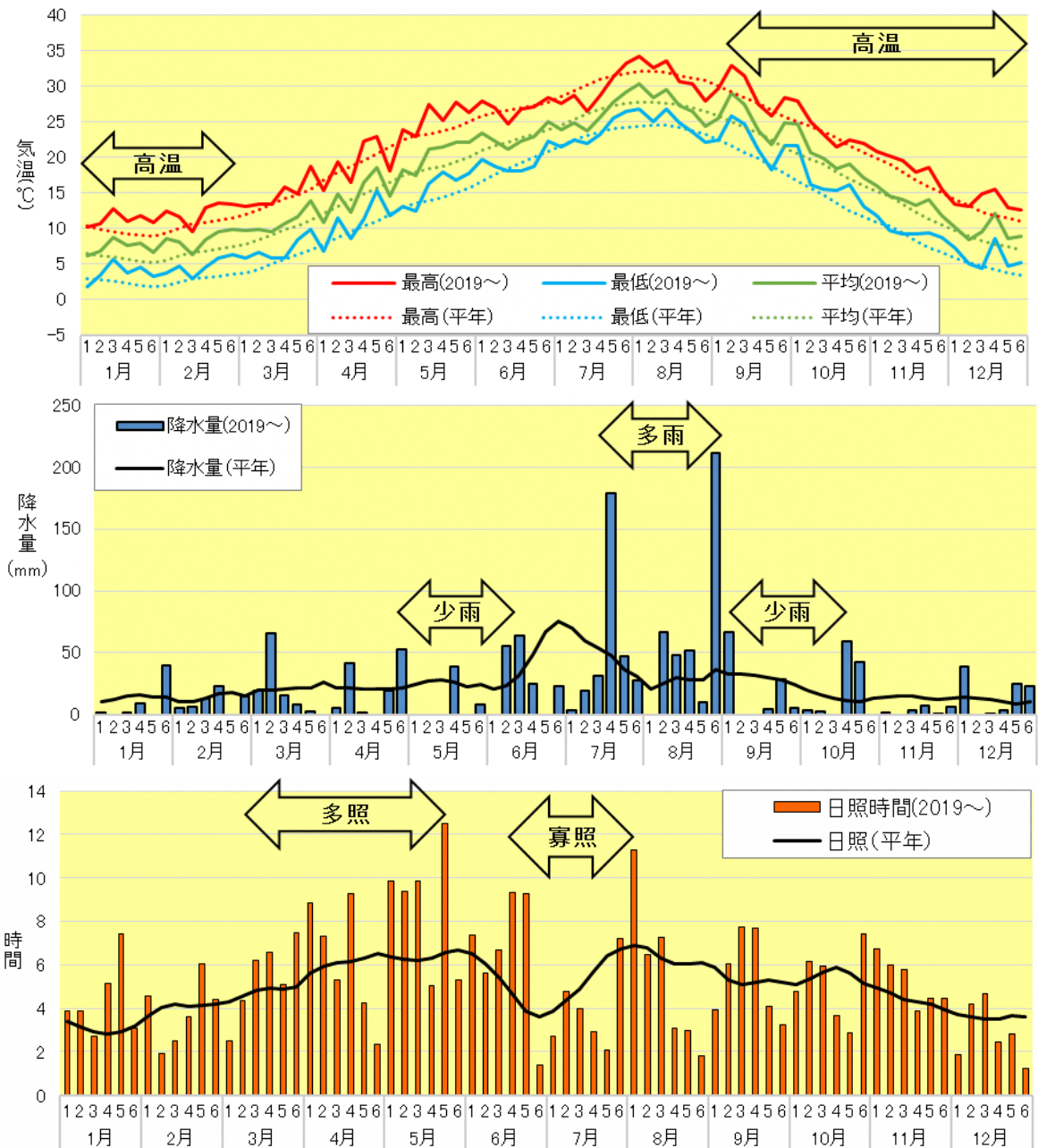
福岡県北九州普及指導センター

センター長 松尾 和弘

目 次

1	令和元年 気象概況	1
2	成 果	
	(1) 北九州西部地区におけるブロッコリーの生産振興	2
	(2) 北九州地域の新規就農者支援体制の整備による担い手の確保・育成・定着	4
	(3) 女性農業者の経営参画促進	6
	(4) 新規需要米の生産振興	7
	(5) 水稻・大麦採種ほの安定生産	8
	(6) ICT事業の成果を活用していちご生産技術を効率的に向上	9
	(7) 露地野菜のソルゴー作付けによる根こぶ病対策と土壌改良の普及	10
	(8) 花き部会の活性化と担い手支援	11
	(9) 黒毛和牛地域内一貫生産の推進	12
3	主な展示ほの結果の概要	13
4	トピックス	14
	・当普及指導センターが知事より職域表彰を受賞	
	・北九州市の清水正人氏が福岡県農業指導功労者表彰を受賞	
	・福岡県農林水産まつりでダブル受賞	
	・岡垣町の廣渡進也氏が福岡県麦作共励会で優秀賞を受賞	
	・中間市の日高誠司氏が福岡県大豆作経営改善共進会で優良賞を受賞	
	・第25回県北ブロック農業青年技術交換大会を管内で開催	
	・管内全域の就農希望者農業研修実施機関が設立	
	・博多蓄菜現地検討会で新系統の現地試験評価	
	・ブロッコリーほ場で排水対策の農機実演会を開催	
5	現地活動情報・活動体制	
	・令和元年度現地活動情報一覧	19
	・令和元年度普及指導センターの活動体制	21

令和元年 気象概況



- 1～3月の高温で麦や野菜を中心に生育が進むとともに、降雨の影響も受けて雑草や病害が増加しました。4～6月は日照時間が多かったものの降雨量が少なかったことから、麦類は高収量となりましたが、野菜や果樹で生育不良や肥大不良などの影響がありました。
- 梅雨入りは6月26日頃と平年に比べ20日ほど遅く、梅雨明けも7月25日頃と遅く、8月も断続的な雨があり、特に8月末の多雨のため、露地野菜の定植作業が大幅に遅れました。
- 9月以降は高温が続いたため、野菜を中心に生育が前進化し、病害虫の増加が見られました。また、少雨・高温により生育不良となりました。

北九州西部地区におけるブロッコリーの生産振興 ～新規生産者の確保と中核的生産者の規模拡大～

1 背景

北九州西部の若松地域は、キャベツ、ブロッコリーなどの露地野菜の一大産地であり、水稻後作のブロッコリーは販売実績が伸びています。しかし、近年生産者の高齢化による栽培面積の減少や天候不順による定植の遅れが原因となり、栽培面積と販売数量が伸び悩んでいます。

このことから、産地の維持・拡大を図るために、若松地域に加えて新規産地である八幡地域での新規生産者の確保を行うとともに、主な作付けを占める水田地帯において、担い手への農地集積による中核的生産者の規模拡大に取り組む必要がありました。また、若松地域の安定生産のために、適期定植に向けた排水対策、作型に応じた品種選定、土づくり対策等の生産性の向上も支援する必要がありました。

2 取組内容

(1) 新規生産者の確保と収量安定

八幡地域では、新規生産者の確保と収量向上のために、栽培講習会の開催、作付計画の作成支援、個別巡回による栽培管理指導、先進地視察等に取り組みました。



栽培講習会



収穫されたブロッコリー

(2) 中核的生産者の規模拡大

農地の貸し手と借り手の農地集積ルールが確立したモデルA地区において、継続して2ha以上のブロッコリーを栽培している中核的生産者への規模拡大を支援しました。そして、労働力不足の生産者には、就業希望者の情報提供とマッチング等を行いました。

また、他地区への取組みの波及に向けて、関係機関と協議して推進地区を選定しました。規模拡大に向けた雇用労働力の確保については、雇用ヘルパー確保の先進事例調査等を行いました。

(3) 生産性向上の取り組み

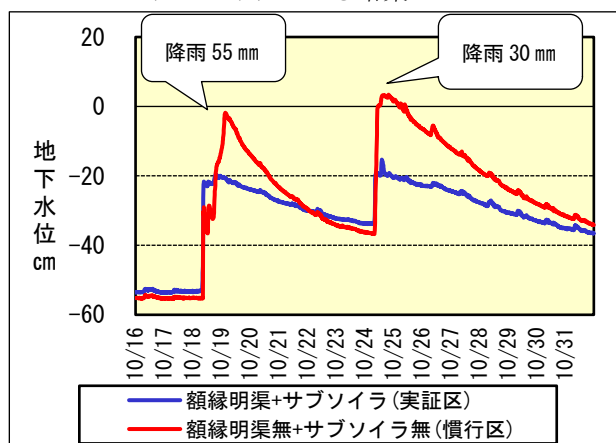
水稲後作では、天候不順になると定植が遅れ、収穫期が重なり出荷量が不安定となるため、適期定植に向けた排水対策実証ほ、作型に応じた品種比較実証ほ、鶏ふん堆肥を利用した土づくり実証ほ等を設置しました。また、生産検討会と個別巡回により、適期定植の励行を支援しました。



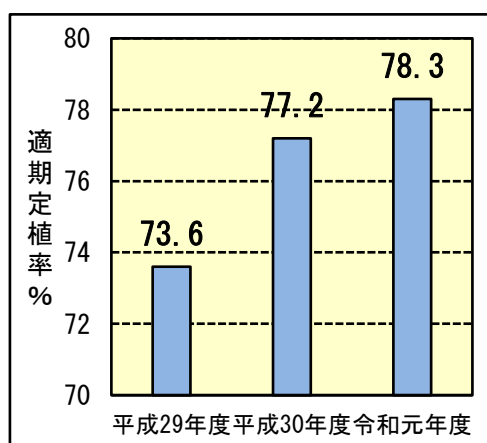
サブソイラによる暗渠



降雨4日後の乾き始めたほ場(排水対策実証ほ)



地下水位の推移



適期定植率の推移

3 成果

- ・八幡地域の生産者数は、前年と同じ6戸でしたが、栽培面積は1.2haから1.6haに拡大しました。
- ・担い手への農地集積により、2ha以上の栽培農家が5戸から6戸に増え、栽培面積は19.3haから20.4haに拡大しました。
- ・中核的生産者の規模拡大に伴い、雇用を導入した農家が1戸増え、3戸になりました。
- ・生産検討会や個別巡回により、適期定植率は77.2%から78.3%に向上しました。
- ・額縁明渠（表面排水）とサブソイラを組み合わせた排水対策ほ場は、何もしないほ場より地下水位が低く、降雨後の土壌の乾きが早いことから、適期定植に向けた排水対策として有効であることが判りました。

北九州地域の新規就農者支援体制の整備による 担い手の確保・育成・定着

1 背景

北九州地域の農業就業人口は、過去5年間で約15%減少し、65歳以上の割合は約70%（県平均60%）と、担い手の減少と高齢化が深刻化しており、地域農業の担い手の確保・育成が急務となっています。

一方で、特に農外からの新規参入者が就農するためには、農地、施設・機械、住宅等の確保や栽培技術の習得など、新規就農者だけでは解決できない様々な課題があります。

そのため、地域農業を担う新たな担い手の確保・育成・定着をめざし、関係機関と先進優良農家等との連携による北九州地域全体の新規就農者支援体制を整備する必要がありました。

2 取組内容

（1）担い手育成推進体制の整備

関係機関の定例会で、就農相談内容や新規就農者の営農状況についての情報を共有し、就農希望者への情報提供や新規就農者の巡回指導等のフォローを行いました。併せて、北九州地域全体の新たな新規就農者支援体制について関係機関と検討を行うとともに、北九州市やJA等と連携し、(株)JA北九絆ファームの農業次世代人材投資資金（準備型）の農業経営者教育機関認定に向けた検討を進めました。

（2）新規就農・就業者の確保

就農相談を受け、新規就農希望者に対して就農支援制度や北九州地域の農業についての情報提供を行いました。また、関係機関や先進優良農家等に協力いただき、就農希望者の農業体験研修を実施しました。

併せて、新規就農者の就農から5年間の経営計画である青年等就農計画を作成する際に、関係機関と協力して支援しました。

特に、就農3年未満の新規就農者に対する就農計画達成に向けた重点的な支援が必要だと考え、関係機関と連携して個別の栽培技術・経営指導を行いました。



新規就農者への個別技術指導

また、就農5年未満の新規就農者を対象に、4部門の営農基礎講座を開催しました。

いちご及び花き部門では、座学や現地での栽培技術指導などを行いました。

土づくり部門では、現地で土壌断面調査や土づくりの基礎について研修しました。経営部門では、青色申告や所得税・消費税の基礎や資金繰りなどについて研修を開催しました。



土づくり研修



経営研修

3 成果

(1) 担い手育成推進体制の整備

- ・北九州市が事務局である北九州地域農業次世代人材育成協議会が、農業次世代人材投資資金(準備型)の農業経営者教育機関として福岡県から認定され、北九州地域における就農予定者の研修受入れ体制が、より充実しました。
- ・担い手育成・確保についての定例会議を開催する組織が、6組織から8組織に増え、管内全市町で定例会議が開催されることとなりました。

(2) 新規就農・就業者の確保

- ・令和元年度の就農相談件数は40件(R2. 1.31現在)で、うち4人の相談者が就農を目指して農業大学校等で農業研修を受ける予定です。
- ・令和元年度は、北九州地域で14名が就農しました。

女性農業者の経営参画促進

1 背景

地域農業の振興や農業経営発展等に重要な役割を担っている女性農業者に対して、経営参画を促し、その能力を発揮するために必要な知識や技術の習得支援を行いました。

2 取組内容

(1) 対象となる女性農業者の掘り起こし

関係機関と連携して、認定農業者の配偶者・家族経営協定締結者のうち、農業従事日数 100 日以上・55 歳以下の女性農業者のリストアップと、地域リーダー候補者の選定を行いました。

(2) 営農基礎講座の開催

就農 5 年未満の女性農業者や女性農村アドバイザーを対象に、先進地視察などの経営力向上研修や、女性起業リーダー育成研修を開催しました。

(3) 女性農業者の経営参画促進

専門家による個別相談会を開催し、経営ビジョンの策定を支援しました。また、その実践にむけて、地域係と部門担当が個別支援を行いました。

3 成果

3 年間で 15 回の講座を開始し、延べ 35 人の女性農業者が参加しました。研修をきっかけに、女性農業者がより多角的な視点で農業について考えるようになり、また、女性農業者間の交流が生まれました。

専門家の助言を受けて、3 年間で 7 人の女性農業者が新たに経営ビジョンを策定しました。H26 年から 16 名が経営ビジョンを策定し、うち 4 人が起業・直売所開設、ハウスの移転、主要品目の規模拡大、栽培品目の部門分担など、ビジョン実現のための具体的な一歩を踏み出しました。

地域リーダーとなりうる女性農業者リストを整備しましたが、どのような支援が必要か把握するため、次年度にアンケート調査を行う予定です。



農業経営基礎研修の様子



直売所開設とトマトの商品開発

新規需要米の生産振興 ～「ミズホチカラ」の用途変更と面積拡大～

1 背景

平成 29 年度から中間市・遠賀郡では、水田フル活用ビジョンに基づいた転作作物として飼料用米多収品種「ミズホチカラ」の導入が始まり、平成 30 年度は 34 名の生産者が 44.4ha を作付けし、平均反収は 636kg/10a と高収量でした。

J A北九は、平成 30 年度まで飼料用途として全農へ出荷していましたが、1～5 円/kg と安い単価でした。また、一般栽培米より多収である分、カントリーエレベーター手数料がかさみやすく、経費の面でデメリットとなっていました。

生産者の意見を踏まえ、令和元年産から米粉用途に切り替えて生産に取り組むことになりました。熊本製粉株式会社へ契約販売することで、生産物単価が 10～15 円/kg となることから、生産者の所得向上につながると見込まれます。一方で、食用としての品質保持が必要となることから、米粉用途に応じた安定生産の指導に取り組みました。

2 取組内容

(1) 栽培技術指導の徹底

収穫が、他品種のカントリー荷受けと競合しないよう、6/10 頃の移植の遵守や、カメムシ防除による被害粒軽減などを推進しました。また、現地巡回や講習で生産者と圃場確認を行い、栽培管理の徹底を図りました。

(2) 安定多収に向けた施肥試験

成分を改良した緩効性肥料の収量性について調査しました。

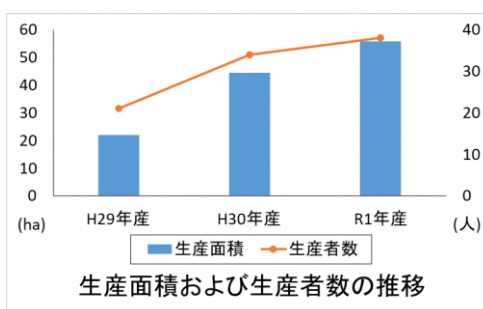
(3) 生産面積の拡大

既存生産者の規模拡大や新規生産者の確保のため、排水不良等で大豆が低収となっている集落営農法人組織や個別大規模経営体を中心に、転換作物として米粉用米の取り組みを推進しました。また、種子の安定確保のため、今年度から採種ほを設置し、生産者へ全量供給を行う体制をつくりました。

3 成果

令和元年度の「ミズホチカラ」の生産者は 38 名で、栽培面積は 55.6ha と約 11ha 増加しました。また、約 70a の採種ほを設置しました。

2 か年における施肥試験では、リニア型とシグモイド型を含む緩効性肥料を施用することで、慣行に比べ 4～5% の増収効果が確認されました。肥料の改良によりミズホチカラの安定多収が見込まれ、今後も面積の増加が期待されます。



水稻・大麦採種ほの安定生産 ～種子合格率と責任生産量達成を維持～

1 背景

管内では、北九州市八幡西区で水稻及び大麦の採種を行っています。生産技術が高いものの、近年は異常気象や部会員の高齢化、世代交代による技術の継承が課題となっています。このため、作業の軽減対策や異常気象に負けない栽培管理の徹底等の支援を行いました。

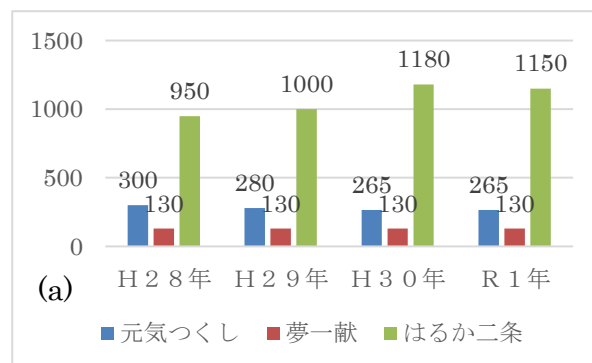


図1 採種ほ面積の推移

2 取組内容

(1) 展示ほの設置

水稻育苗及び移植作業の軽減に向けて、軽量培土等の試験を行いました。

(2) 講習会等での周知

大麦では土壌pHが低い場合は、酸性障害が発生するので、土壌分析等を実施し改善に努めました。

ほ場審査（出穂期、糊熟期）、生産物審査（発芽率調査含む）に先立ち、ほ場の管理の徹底（雑草、病害虫、追肥、雑穂抜き等中間管理）や、ほ場巡回を実施しました。

3 成果

軽量培土等を使った育苗培土の試験（表）では、試験区はいずれも作業性が良く、問題がないことが確認できました。

水稻については、いもち病やウンカ類の発生、大麦については、赤かび病の発生を抑えるための防除の徹底が図られたことで、異常気象や台風の影響を最小限に抑え、安定した合格率と責任生産量（図2）をほぼ達成しています。

このことにより、4戸中3戸の部会員で、後継者がここ数年で確保されるなどの新しい動きにつながっています。

	床土資材	覆土資材	箱重 (kg/箱)	コスト (円/箱)
試験区1	こめパワーマット	みのリエース	5.04	151.2
試験区2	軽量培土	軽量培土	5.1	152.2
慣行区	みのリエース	みのリエース	7.06	124

田植え時、かん水後の箱重量

表 水稻育苗における培土の検討

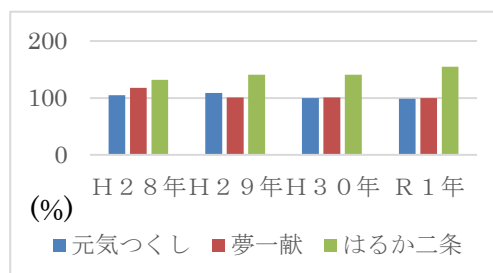


図2 責任生産量達成率

ICT事業の成果を活用していちご生産技術を効率的に向上

1 背景

J A北九いちご部会は、共販出荷者が19戸で高齢化などにより毎年離農者がいる一方で、近年、毎年新規就農者が加入しています。そのため、新規就農5年未満が共販出荷人数に占める割合が、平成25年は25%であったのに対して、令和元年度は37%になっています。しかも、農家の後継者や農業大学卒業生などではなく、農業経験が無く就農した生産者が増えています。産地振興と生産安定化のためには、農業経験が少ない生産者の栽培技術支援が急務となっていました。

2 取組内容

(1) ICT（情報通信技術）機器の利用によるハウス内環境の管理状況の数値化

ハウス内環境を測定・記録できる機器（写真）を栽培経験の少ない4戸の生産者に設置し、その数字を基に栽培管理技術の改善を支援しました。



ハウス内環境の測定

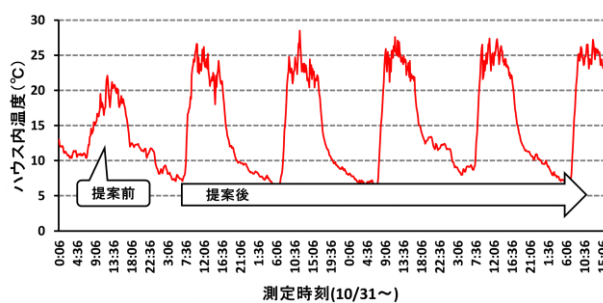


図1 数値による改善案の提案前後の温度管理の変化

(2) 高収量生産者の技術に見える化した数値と比較して技術改善

生育状況を定期的に調査し、県のICT事業（平成28～30年度）で見える化した高収量生産者の技術の数値を活用して、測定記録と比較しながら具体的に分かりやすい説明を心がけ、新規就農者が効率的に技術向上できるように支援しました。

3 成果

ハウス内環境や生育状況を数値化して見える化することで、栽培経験の少ない生産者は測定記録から現在の状況を適切に把握し、短期間で管理技術を改善できました（図1）。

現在、J A北九いちご部会の出荷数量実績は、平成28年産から72.8～74.3tで維持しています（図2）。

今後も更なる産地の生産力向上と安定を目指して、栽培技術の向上を支援します。

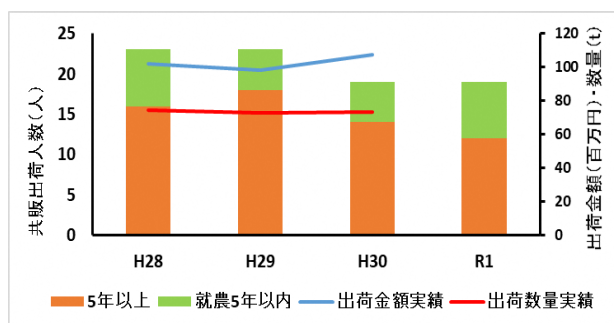


図2 J A北九いちご部会の出荷人数と出荷数量・金額実績

露地野菜のソルゴー作付けによる根こぶ病対策と土壌改良の普及

1 背景

若松区では、キャベツやブロッコリーを中心に露地野菜産地が広がっています。しかし、重要病害である根こぶ病の発生が拡大しています。また、土壌中の腐植含量が非常に少なく、土壌硬度が高いため、物理性などの土壌改良も求められます。

そこで、根こぶ病対策と土壌改良効果が期待されるソルゴーを作付けし、その効果の実証と普及に取り組みました。

2 取組内容

(1) 根こぶ病菌密度の低下の実証

土壌中の根こぶ病菌密度を分析する機関を活用して、ソルゴーを栽培する前後の土壌中の根こぶ病菌密度を分析し、比較することで効果を実証しました。

(2) 土壌改良効果の実証

分析機関を活用して、ソルゴーを栽培する前後の土壌中の腐植含量を比較することで、ソルゴーによる土壌改良効果を実証しました。

3 成果

ソルゴー作付け前の土壌中根こぶ病菌密度は14,000個/土1gでしたが、ソルゴー作付け後は1,000個/土1gまで減少しました。また、土壌中の腐植含量も1.2%から1.8%に増加し、ソルゴーには根こぶ病菌密度の低下と土壌改良の両方の効果があることが実証できました。(表1)

また、実証結果を生産者が集まる講習会で報告し、今後の普及に向けて周知することができました。



しっかり育ったソルゴー

	ソルゴー作付け前	ソルゴー作付け後
根こぶ病菌密度	14,000個/土1g	1,000個/土1g
腐植含量	1.2%	1.8%

表1 ソルゴー作付け前後における分析結果

花き部会の活性化と担い手支援

1 背景

J A北九花き部会（33戸）は、北九州地域（北九州市、中間市、遠賀郡）全域での活動であり、部会内に鉢物班、苗物班、切花班の3班があります。シクラメン（7戸）、花苗（10戸）以外にも多様な品目が生産されています。

近年後継者の就農が増えたこともあり、基本技術の習得や個別の生産性向上が課題となっていることから、部会活動の強化が求められていました。

2 取組内容

（1）組織活動の活性化

定例的に行われている部会の秋の出荷検討会・商談会（生産者9名、13花き市場、6業者）は、「鉢物の日持ち性向上」について花市場、業者とディスカッションを行い課題を共有しました。

鉢物班、苗物班、切花班では組織活動の活性化として、栽培技術に関する勉強会を行いました。特にシクラメンでは、アザミウマ類によって媒介されるトスポウイルス撲滅に取組み、シクラメンの品質向上を促しました。



出荷検討会（ディスカッション）



商談会（現地（花場）巡回）

（2）若い生産者への個別支援

個別農家の目標達成のため、花き部会勉強会、シクラメンの栄養診断、新たな品目導入支援、個別課題対応巡回による支援を行いました。

3 成果

部会活動や基本技術の共通課題が再認識され、生産者間や苗物班と切り花班交流が活発になりました。部会活動の活性化により、シクラメンの品質向上、花苗のクレーム減少につながりました。また、新規にカルセオラリア等4品目が導入されました。

併せて若い生産者への個別支援により、2戸が今年度に掲げた安定出荷などの年間目標を達成しました。

黒毛和牛地域内一貫生産の推進 ～「小倉牛」復活へ～

1 背景

「小倉牛」は平成元年に発足した銘柄牛で、北九州市内の消費者にも定着しており、かつては年間160頭を出荷していました。しかし、近年小倉牛生産頭数は生産環境の悪化(肥育素牛、飼料価格の高騰等)により、平成28年度には49頭まで減少し、「小倉牛」ブランド維持が懸念される状況となっています。

そこで、小倉牛ブランドを絶やさないために、平成28年度から北九州市が市内畜産農家に繁殖和牛飼育を委託し、地域内での小倉牛一貫生産を一部スタートさせました。

さらに、繁殖和牛の飼養経験がない農家への技術習得を支援し、地域全体での小倉牛一貫生産を推進しました。

2 取組内容

(1) 小倉牛飼養農家巡回

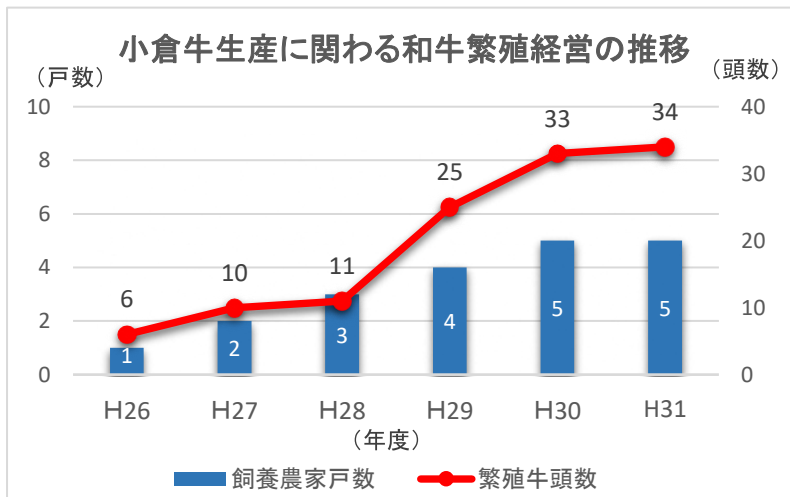
小倉牛飼養農家を定期的に巡回し、肥育牛の飼養管理改善や、繁殖牛の繁殖成績の確認を行いました。

(2) 子牛発育調査

産まれた子牛の体重・体高を定期的に調査し、発育を確認するとともに、子牛の飼養環境についての調査・改善を行いました。

3 成果

平成28年に北九州市が10頭の繁殖牛を導入し、市内の畜産農家2戸へ飼養委託を開始したところからこの取り組みは始まりました。それから繁殖牛は着実に増加し、市内の繁殖経営は5戸に、頭数は34頭となりました(下図参照)。今年度出荷見込みの66頭の「小倉牛」のうち地域内で一貫生産されたものはまだ8頭ですが、その頭数は今後も着実に増加する見込みです。地域内で生産された和牛子牛は、家畜市場から購入する肥育素牛に比べ、1頭当たり25万円の生産費を低減できることから、その割合が増えるほど、小倉牛生産農家の経営改善につながります。



子牛発育調査

主な展示ほの結果の概要

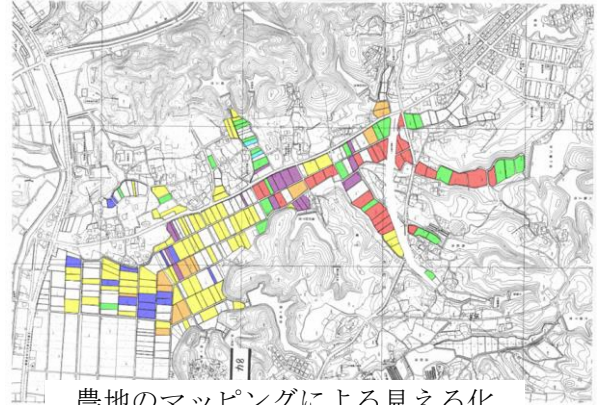
対象作物	設置場所	課題と結果の概要
水稲	八幡西区	【畦畔除草剤「ダイロンゾル」の効果検討】 ダイロンゾルは水稲畦畔除草剤で、散布により畦畔に処理層を形成し、新たな雑草の発生を抑制する効果があり、水稲栽培期間中の畦畔管理の省力化が図られる。本年の試験では、処理後50日以上抑草効果が確認できた。
水稲	八幡西区	【箱維新箱粒剤のウンカ類に対する効果検討】 箱維新箱粒剤は、ウンカ類に高い効果を示す新成分「ゼクサロン」を含む新剤である。本年は、トビイロウンカの被害が多い年だったが、試験圃場では、穂揃い期までウンカに対する非常に高い効果と残効を示した。このことから、令和2年産の水稲暦に「ゼクサロン」を含む剤を採用することとなった。
水稲	八幡西区	【こめパワーマットおよび軽量育苗培土の現地適応性】 こめパワーマットおよび軽量育苗培土は、通常の育苗培土に比べて軽く、苗の軽量化につながる省力資材である。本年の試験では、田植え直前の苗の重さは、慣行培土のものに比べて約半分程度と非常に省力化が図れる資材と考えられた。また、田植え後の生育及び収量は同程度であった。
水稲	岡垣町	【奨励品種決定現地試験2年目】 「ちくし95号」は、いもち病に対して圃場抵抗性を有し、高温耐性で良食味の「夢つくし」の後継品種候補である。本年の試験では、収量は「夢つくし」より多く、白未熟粒が少なく検査等級は高くなり食味試験も良好であった。2か年を通して良好な成績となり、当センターとしては、有望品種と評価した。
大豆	中間市	【大豆連作田における有機物施用の効果検討2年目】 米ぬか500kg/10a区、粃殻1t/10a区、米ぬか500kg/10a+粃殻1t/10a区の3つ区を設定した。米ぬか区および粃殻区は、単年施用、2年連続施用で収量面の効果は判然としなかったが、米ぬか+粃殻区は、稔実莢数が増え増収した。このことは、米ぬかの保水・保肥効果と粃殻の排水効果がバランスよく組み合わせられた結果ではないかと考えられる。
シクラメン (5号鉢)	小倉南区 (農事センター・生産者ほ場)	【底面給水における施肥と反射マルチによる品質向上】 9～11月の施肥が多少多かった影響で、少し株張りが大きかった。10月21日からベンチ上に反射マルチを被覆したが、反射が強すぎ、萎れが出る等株の衰弱があり、葉色、葉数等に悪影響が出た。このため、次年度は施肥を少なめにし、適度な遮光をすることとした。
ハボタン	小倉南区 (農事センター)	【品種比較・多用途試験】 露地でコストをかけずに導入できるハボタンの切り花品種展示を行った。12品種を展示し、フェザーホワイト、ファーストレディ等5品種は、洋風のアレンジとして活用できる。また、切り花、花壇苗での抽苔した姿は、ファーストレディ、ピーチレディが優れていた。
ジニア	小倉南区 (農事センター)	【夏季作型の比較試験】 4月中旬から1か月おきに7月中旬まで9品種を毎月は種し、定植、摘心し、6月～9月まで収穫できた。組み合わせ作物として活用できる。
南半球植物	小倉南区 (農事センター)	【増殖試験】 アカシア、ドドナエアの種子発芽試験。パイナップルリリー、リュウカデンドロン等のさし木試験。種子発芽、さし木の発根は成功し、増殖中。新規品目として活用していく。
キャベツ	若松区	【緑肥を活用した根こぶ病菌低減と土壌改良】 キャベツの定植前にソルゴーを栽培することで、重要病害である根こぶ病の土壌中菌密度が低下した。また土壌中の腐植率が向上し、土壌の物理性が向上した。
ブロッコリー	若松区	【排水対策】 溝掘機で額縁明渠を施工することで表面排水が向上した。また、弾丸暗渠や穿孔暗渠施工を施工することで地下排水の向上が確認された。また、施工する際に農機実演会を開催し、生産者の排水対策の意識が向上した。
ブロッコリー	遠賀町 水巻町	【品種比較】 ブロッコリーの10月出し品種を検討した。8月初旬定植の「SK9-099」は「サマードーム」と比べて、収穫は1週間程度早く、頂花蕾重は重かったが、花蕾の品質はどちらも凹凸が激しかった。
なす	小倉南区	【防風対策】 なすほ場の防風対策として、ほ場の周りにソルゴーを複数品種作付けした。防風効果を確認できたとともに、ほ場に適する品種を検討することができた。
赤シソ	岡垣町 遠賀町 芦屋町	【発芽率向上対策】 赤シソの種子は、自家採種後一定期間の休眠があるため、すぐには発芽しない。そこで、発芽率向上のため低温処理の効果を検討した結果、3℃30日間の低温処理後に播種すると、発芽率が向上することが判明した。
カンキツ	岡垣町	【かんきつ灰色カビ病に対する防除効果の検討】 かんきつ類の開花期前後に発生する、灰色カビ病の防除効果（パレート1570アブル）の検討を実施した。本年は灰色カビ病の発生が少なく、防除効果ははっきりしなかったが、他の病害の発生もなかったため、開花期前後の防除剤として効果がある。

当普及指導センターが知事より職域表彰を受賞 ～農地の見える化による農地集積と園芸産地の拡大取組みが評価～

当普及指導センターでは、北九西部地域農業推進班を中心に農地の「見える化」による農地集積の取組みと園芸産地の拡大に、昨年度から取り組んでいます。

市販の地図ソフトを基に、センターにおいて農地の所有状況や利用状況毎に色分けした農地マップを作成し、マップを利用して関係機関と連携し担い手への農地集積を進めました。

県内でも初めての取組みであり、作業効率を考慮した上での園芸品目の団地化・連坦化につながるものとして評価されました。



農地のマッピングによる見える化

北九州市の清水正人氏が福岡県農業指導功労者表彰を受賞 ～新規就農者の育成支援に尽力～

北九州市小倉南区で施設鉢花の経営を行っている清水正人氏が、福岡県農業指導功労者として、令和2年1月29日の福岡県青年農業者会議で表彰されました。

清水氏は、いち早くシクラメン、カーネーションを中心とした施設鉢花栽培に取り組み、JA北九花き部会の部会長や福岡県指導農業士会会長を務められ、長年、新規就農者の支援を行ってこられました。

平成13年北九州市小倉南区で5戸による県単補助事業を活用し、鉢物施設5,500㎡を建設し、後継者ができる基盤作りに取組まれました。

平成25年の3JA合併後は、JA北九花き部会会長として、JA北九花き部会の一本化を図り、市場、業者を招いた春・秋の出荷検討会・商談会や鉢物の共販推進、勉強会の開催、シクラメンの栄養診断等に取り組み、新規就農者のよりどころとなる組織の育成に尽力されました。

その結果、11名の花き新規就農につながりました。

長年に渡り、地域農業の発展に貢献された実績が評価され、今回の表彰となりました。



清水正人氏

福岡県農林水産まつりでダブル受賞 ～俵口徹氏（名誉賞）、JA北九採種部会（優秀賞）～

令和元年11月16日、福岡市で開催された福岡県農林水産まつり農林水産賞において、管内から1個人、1組織がめでたく受賞されました。

1 俵口徹氏（岡垣町）が名誉賞を受賞

水稲とびわの経営を行っている俵口氏は、100年を超える歴史があり本県第一位の生産を誇る「高倉びわ」の生産者です。

平成26年度から始まった、後継者育成を目的とした「高倉びわ生産塾」の会長を務め、平成28年度からはJA北九びわ部会長としても活躍されています。

「高倉びわ生産塾」は、「高倉びわ」ブランドの維持発展のため、生産者育成を目的とし、土づくりから栽培技術管理、収穫、出荷に至るまで、びわ部会員と関係機関が専門的な研修を行っています。塾終了後は、園地を紹介するなど、今日までに26名の受講者のうち14名がびわ栽培に取り組んでいます。

これら地域農業の発展に貢献した実績が評価され、今回の表彰となりました。

2 JA北九採種部会（北九州市八幡西区）が優秀賞を受賞

水稲と大麦の採種を行っている同部会（倉成保彦部会長ら部会員4名）は、昭和58年に設立され、当初は水稲の種子生産に取り組まれていましたが、その後、大麦の種子生産にも取組み、今日に至っています。

この間、生産技術の向上に務められ、高い合格率、責任生産量の達成を維持されています。県内でも優秀な種子の評価を受けていることから、近年では原種ほの生産も行っています。長年にわたる種子の高品質・安定生産が評価され、今回の表彰となりました。



俵口徹氏（左側）、JA北九採種部会倉成部会長（右側）

岡垣町の廣渡進也氏が福岡県麦作共励会で優秀賞を受賞

廣渡進也氏は、米・麦・ケールの栽培を中心に農業を営んでおり、令和元年産麦では、大麦「はるか二条」を約 17ha 作付しました。

栽培面では、ほ場周囲溝の排水と併せて、手野地区の土壤に合うように爪を改造したハーフソイラ（深度 50cm）とスタブルカルチ（深度 25cm）を施工し、本暗渠へつないで徹底的な排水対策を行っています。また、自家製堆肥の施用による保肥力の向上にも努めています。このことから、令和元年産麦は、地域平均を大きく上回る収量および品質を確保しました。

経営面では、無駄のない作業計画を作成し、効率的で安定した大規模経営を実践し、更なる規模拡大を目指しています。

これらのことが評価され、今回の受賞となりました。

中間市の日高誠司氏が福岡県大豆作経営改善共進会で優良賞を受賞

日高氏は、経営面積約 6.5ha の認定農業者です。大豆作は 10 年前から取組んでおり、平成 30 年産は約 1.5ha を作付しました。

技術面では、管内で梅雨明け後の乾燥による出芽不良が見られる中、播種時の土壤水分の把握と圃場の排水状態に合わせた種子消毒剤の選択などによって、高い出芽率を確保すると共に、雑草対策を徹底し、JA 北九平均の 2 倍以上にあたる 200kg/10a を超える収量を確保しました。

経営面では、規模に応じた農業機械の導入や地元の機械利用組合の利用により、経費の削減に努めています。

また、若い頃から地区の生産組合の役員などを歴任し、現在は農業委員を務めるなど、地域の活動にも積極的に取り組んでいます。

これらのことが評価され、今回の受賞となりました。



廣渡 進也氏（左側）、日高 誠司氏（右側）

第25回県北ブロック農業青年技術交換大会を管内で開催

令和元年度県北ブロック農業青年技術交換大会が北九州の若松グリーンサラダクラブ主催で行われ、北九州・飯塚・田川・京築地区から12名の農業青年が参加しました。

大会では、県北ブロックの4つの普及指導センターで作成した農業に関する問題を解き、成績優秀者を決定します。経営から栽培方法など幅広い分野の問題が出題されますが、今年初めて発生が確認された害虫など、新たな知識も必要になるため、農業青年たちは頭を悩ませている様子でした。また、昨年も参加した生産者は昨年の成績と比較し、営農に関する知識や経験の成長を実感しているようでした。

参加した若手生産者たちの経営は多岐に渡りますが、地域の担い手として積極的に交流を図っており、次世代を担う地域の生産者としてさらなる活躍が期待されます。



挨拶をする地元役員

管内全域の就農希望者農業研修実施機関が設立

令和元年度から、国の研修支援制度である農業次世代人材投資資金（準備型）を活用するためには、福岡県が認める教育機関でおおむね1年以上研修を受けることが要件の一つとなりました。

当初、北九州地域には県の認定する教育機関がありませんでしたので、このままでは北九州で新規就農を志す方たちの円滑な就農に支障をきたす恐れがありました。

そこで、関係機関で何度も県と協議を重ね、北九州市を事務局とした「北九州地域農業次世代人材育成協議会」が、県から研修受入機関に認定されました。

令和2年度から新規就農希望者対象にした研修を、(株)JA北九絆ファームなどで開始します。

博多蕾菜現地検討会で新系統の現地試験評価

「博多蕾菜」はアブラナ科の大型からし菜の一種で、そのわき芽はコリコリとした食感と、程よい辛味がある春の訪れを告げる新しい野菜です。特に血圧降下作用やストレスを和らげる効果が報告されている成分『 γ -アミノ酪酸（ギャバ）』が豊富に含まれている注目すべき野菜です。北九州管内では現在4戸の生産者が意欲的に高品質・安定生産を目指して生産しています。

今年度はさらなる高品質・安定生産を目指して新しい早生系統、優良系統を試作し、JA北九と普及指導センターが協力して、生育調査と生産者の方たちへ収量や品質などの聞き取り調査を行いました。普及指導センターはこのような新しい野菜のさらなる振興と栽培技術向上を支援しています。



現地検討会の様子



パック詰めされた「博多蕾菜」

ブロッコリーほ場で排水対策の農機実演会を開催

北九州市若松区では、水田の後作としてブロッコリーが栽培されています。しかし、秋の長雨や台風で、定植遅れや定植後の冠水による湿害などで収量が安定しないことが問題となっています。

そこで排水対策のために、全国農業システム化研究会の事業を活用した農機実演会を開催しました。

実演会では、溝掘機を使って額縁明渠を施工することによる表面排水の重要性や、弾丸暗渠を施工することによる地下排水効果について、農機の実演をしつつ説明を行いました。実演会には、多くの生産者や関係機関職員が参加し、地域で排水対策の重要性への意識が高まりました。



農機実演会の様子

令和元年度 現地活動情報一覧(1)

No.	表題 (タイトル)	係名	日付
1	高倉びわ生産塾で担い手確保 びわ生産塾第4期開講中	果樹花き畜産係	4月
2	良い品質の公共花壇苗を納入 きれいな花壇でおもてなし	果樹花き畜産係	5月
3	農業経営者のための退職金制度を学習 遠賀・中間集落営農法人組織連絡協総会及び研修会を開催	水田農業係	5月
4	岡垣町特産「高倉びわ」の作業体験 岡垣町2小学校でビワの袋かけと収穫学習	果樹花き畜産係	6月
5	小倉ナス出荷開始！！ 共同選果利用組合の出荷目合わせ会の開催	野菜係	6月
6	J A北九いちご部会、今年も元気に発進！ 元気な苗づくりのために	野菜係	6月
7	大豆の収量向上を目指して 遠賀・中間地域で大豆播種はじまる	水田農業係	7月
8	花壇苗で消費者との交流会開催 大盛況の花壇生産ほ場見学会	果樹花き畜産係	7月
9	さんさんクラブ北九州 総会&研修会開催 スマート農業の現状と将来について学ぶ	地域係	7月
10	これで土づくりはバッチリ！ 営農基礎講座を開催	地域係	8月
11	農業のツボを押さえよう！ 令和元年度水稻普通作研修会の開催	水田農業係	8月
12	増やせ！『地元産まれの小倉牛』 地元産子牛で『小倉牛』をPR	果樹花き畜産係	8月
13	土づくりを学ぶ熱心ないちご生産者たち J A北九いちご部会の勉強会	野菜係	8月
14	私たちも積極的に経営に参画しよう！ 女性農村アドバイザー及びOB地区研修会開催	地域係	8月
15	消費税軽減税率制度研修会開催 消費税の改正ポイントを学ぼう	地域係	9月
16	水田農業関係施策研修会を開催しました 集落営農法人役員や認定農業者が農業施策を学ぶ	水田農業係	9月

下記の福岡県ホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704707/>

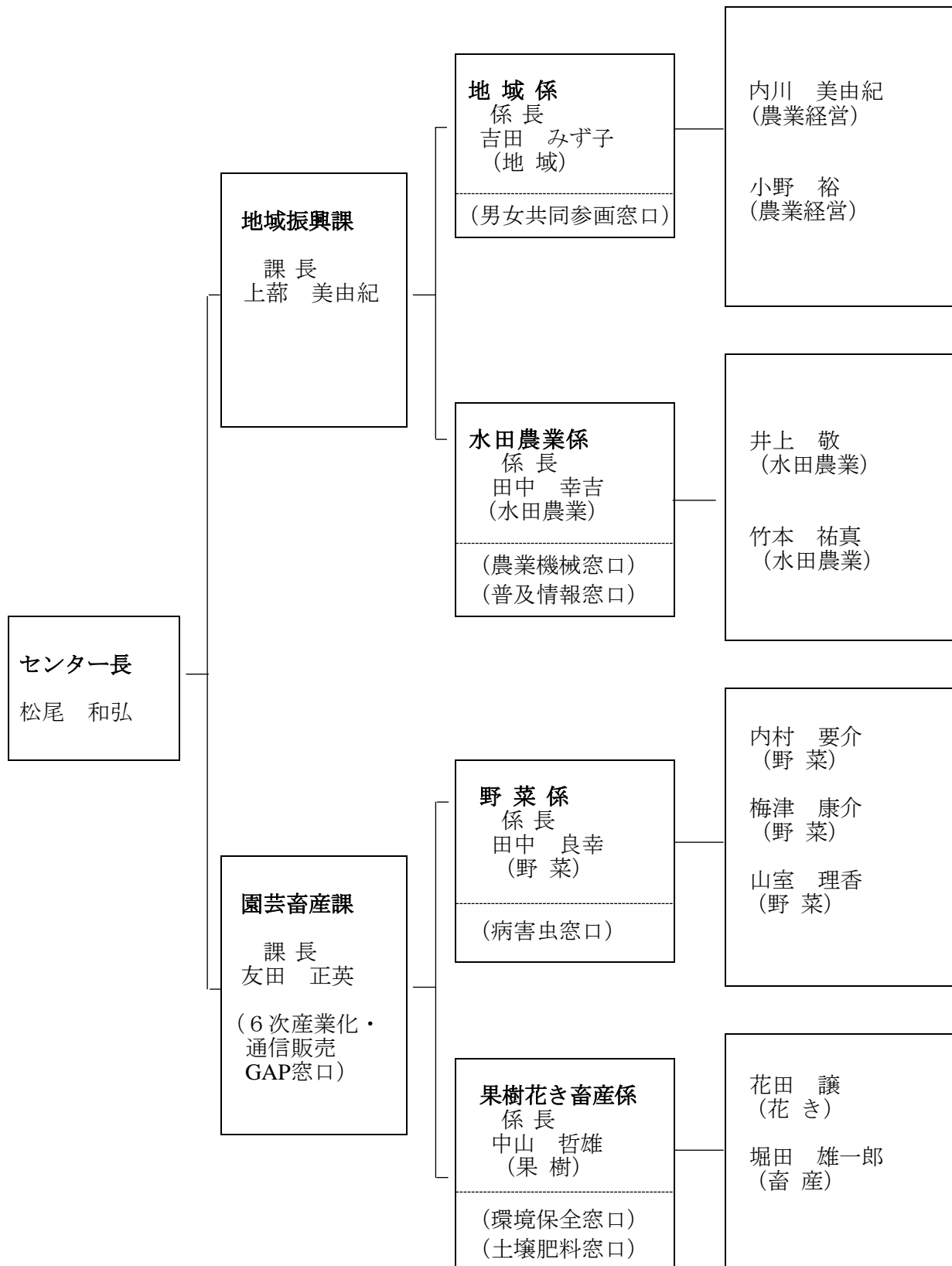
令和元年度 現地活動情報一覧(2)

No.	表題 (タイトル)	係名	日付
17	適期定植をするなら排水対策が重要！！ 全国農業システム化研究会農機実演会を開催	野菜係	9月
18	ベテラン生産者に学ぶ、北九州のいちご栽培 J A北九いちご部会、若手勉強会を開催	野菜係	10月
19	地域を牽引する生産者へ 麦作共励会、大豆共進会表彰式の開催	水田農業係	11月
20	遠賀・中間地域のブロッコリー出荷始まる J A北九ブロッコリー部会、出荷目合わせ会を開催	野菜係	11月
21	これからの地域農業を担う若手農業者の交流！ 第25回県北ブロック農業青年技術交換大会を開催	野菜係	11月
22	農業界で話題の情報を農業者へ 農業用ドローン等研修会の開催	水田農業係	11月
23	鉢花の日持ち性向上を目指して 市場関係者等との出荷検討会、ディスカッションを実施	果樹花き畜産係	11月
24	専門家の助言を受けて今後の経営展開を考えよう！ 新規就農者夫妻の定着支援	地域係	11月
25	さんさんクラブ北九州 視察研修 6次産業化と県ブランド品種開発を学ぶ	地域係	11月
26	小倉特産の大葉春菊の本格出荷スタート J A北九大葉春菊出荷組合、出荷目合わせ会を開催	野菜係	11月
27	安全・安心な農産物生産に向けて 遠賀・中間地区の農薬の保管、使用状況を調査	野菜係	11月
28	地元畜産物が一堂に集結！ 「北九州市農林水産まつり」で地元畜産物PR	果樹花き畜産係	11月
29	遠賀・中間地区農産物共進会が開催された 遠賀・中間農業祭で農産物をPR	地域振興課	12月
30	付加価値をつけたレンゲ米生産に取り組み中 環境保全型農業を推進しています	水田農業係	12月
31	担い手・産地育成総合支援協議会研修会開催 G A Pの取組みや労働力不足について考える	地域係	2月
32	最新のスマート農業や大麦流通を学ぶ 遠賀中間集落営農法人連絡協議会で視察研修会を実施	水田農業係	2月

下記の福岡県ホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704707/>

令和元年度 普及指導センターの活動体制



福岡県行政資料			
分類番号	所属コード	登録年度	登録番号
PA	4703305	1	0001

福岡県八幡農林事務所北九州普及指導センター
〒807-0831
福岡県北九州市八幡西区則松3-7-1(八幡総合庁舎 2階)
TEL 093-601-8854
FAX 093-601-8869
URL: <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704707/>